

目次

目次.....	1
1.1 ご使用前の感謝状.....	3
1.2 本マニュアルの特色.....	4
1.3 安全上の情報.....	4
第2章 本マザーボードの紹介.....	5
2.1 マザーボードの外見は？.....	5
2.2 仕様.....	6
2.3 構成図.....	7
第3章 ハードウェア・インストール.....	8
3.1 kQuick・インストールの手順.....	8
3.2 インストールのために知っておくべきこと.....	9
CPUをインストールする.....	9
CPUファンをインストールする.....	10
CPUとシステムファンを接続する.....	11
メモリーモジュールをインストールする.....	12
デュアルチャネルのパフォーマンスを最大にする.....	13
IDEとフロッピーケーブルを接続する.....	14
前面パネルケーブルを接続する.....	15
ATX電源ケーブルを接続する.....	16
3.3 参考としての他のインストール.....	17
CPU電圧と周波数を設定する.....	17
シリアルATAを接続する.....	18
ハードディスクの設定を調整する.....	19
PCI Express x 16グラフィックススロットを接続する.....	21
PCI Express x 1スロットを接続する.....	22
IrDAを接続する.....	23
10/100/1000Mbps LANをサポート.....	24



USB2.0を接続する.....	25
スーパー7.1チャンネルオーディオ効果.....	26
前面オーディオを接続する.....	27
S/PDIF (Sony/Philips デジタルインターフェイス)を接続する.....	28
ゲームポートを接続する.....	29
CD_INを接続する.....	30
Case Openを接続する.....	31
色分けされた後部パネル (i915Ga-E用).....	32
色分けされた後部パネル (i915Pa-E用).....	33
LED表示.....	34
3.4 ジャンパー設定.....	35
第4章 特別な機能とユーティリティ	36
SilentTek – ノイズよさらば！.....	36
他の便利な機能.....	39
第5章 BIOSを設定する	40
紹介.....	40
Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方.....	41
BIOS設定への入り方.....	41
Windows環境でのBIOSアップグレード.....	42
Vivid BIOSテクノロジー.....	44
第6章 ドライバーをインストールする	45
6.1 ドライバーをインストールする.....	46
6.2 ユーティリティをインストールする.....	47
第7章 トラブルシューティング	48
第8章 テクニカルサポート	49
モデル名とBIOSバージョン.....	50
マザーボードを登録する.....	50
Technical Support.....	51



1.1 ご使用前の感謝状

まず初めに、AOpen製品をご購入くださり厚くお礼を申し上げます。本マザーボードは皆様のあらゆるニーズに合うよう、私たちの持つ優秀な設計能力を駆使し、品質のために尽力を傾け設計されました。

このマニュアルは本マザーボードのインストールの仕方を紹介しています。今後の参考として保管してください。印刷されたマニュアルをなくされた場合は、最新のファイルをダウンロードするために私共のウェブサイト<http://www.aopen.com>にアクセスしてください。

それでは、このユーザーにとって使い勝手のよいマニュアルとAOpenが提供するパワフルな機能のすべてを個人的に経験なさるようお招きいたします。

AdobeとAcrobatのロゴはAdobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonそしてDuronのロゴはAdvanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, IIIそしてPentium 4のロゴはIntel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴはnVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴはアメリカ及び他の国々におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

本マニュアルで言及されている製品のタイトルや商標は解説上の便宜を目的としており、それぞれの企業によって所有されています。

使用上の標準やそれに関連する情報に関わる変更について提供できないことを遺憾に思います。AOpenは本マニュアルの内容について変更や修正を加える権利を留保しています。商品に関わる点も含むいかなる誤記について、AOpenは保証や義務を負うものではありません。

本文書は会社を保護し全ての権利を留保するための著作権法に基付いています。

AOpenからの正式な文書での許可がない限り、どのような状況であれ、本冊子をいかなる種類に複製することも、データベースや媒体に取り込むことも許されていません。

1996-2004 Copyrights, AOpen Ltd. 版權所有。

1.2 本マニュアルの特色

本マザーボードの便利な情報や知っておくべき特定の状況を把握するために、以下のアイコンがしばしば出てきます：



重要

組み立ての過程で知っておくべき知識や役立つヒントを含んでいます。



警告 / 注意

このマークを見たら注意して下さい。組み立て中によく起きるミスや注意すべき点を強調しています。



ヒント

このヒントはインストールをスムーズに行うために役に立つ情報を教えてくれます。

1.3 安全上の情報



コンポーネントを扱う前に、リストストラップを着用しユニットの金属部分に触れてください。別の方法としては、アースされた物体に触れるか、その金属面に触れてください。



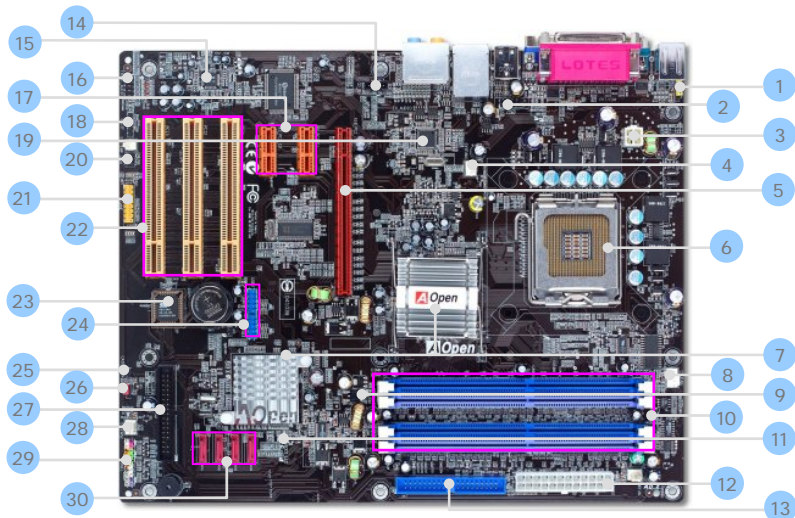
ジャンパー設定の前には常に電源を抜いてください。



マザーボード上のコンポーネントをインストールしたり外したりする前には、最初に電源を外し、マザーボードや他のコンポーネントにダメージを与えないようにして下さい。

第2章 本マザーボードの紹介

2.1 マザーボードの外見は？



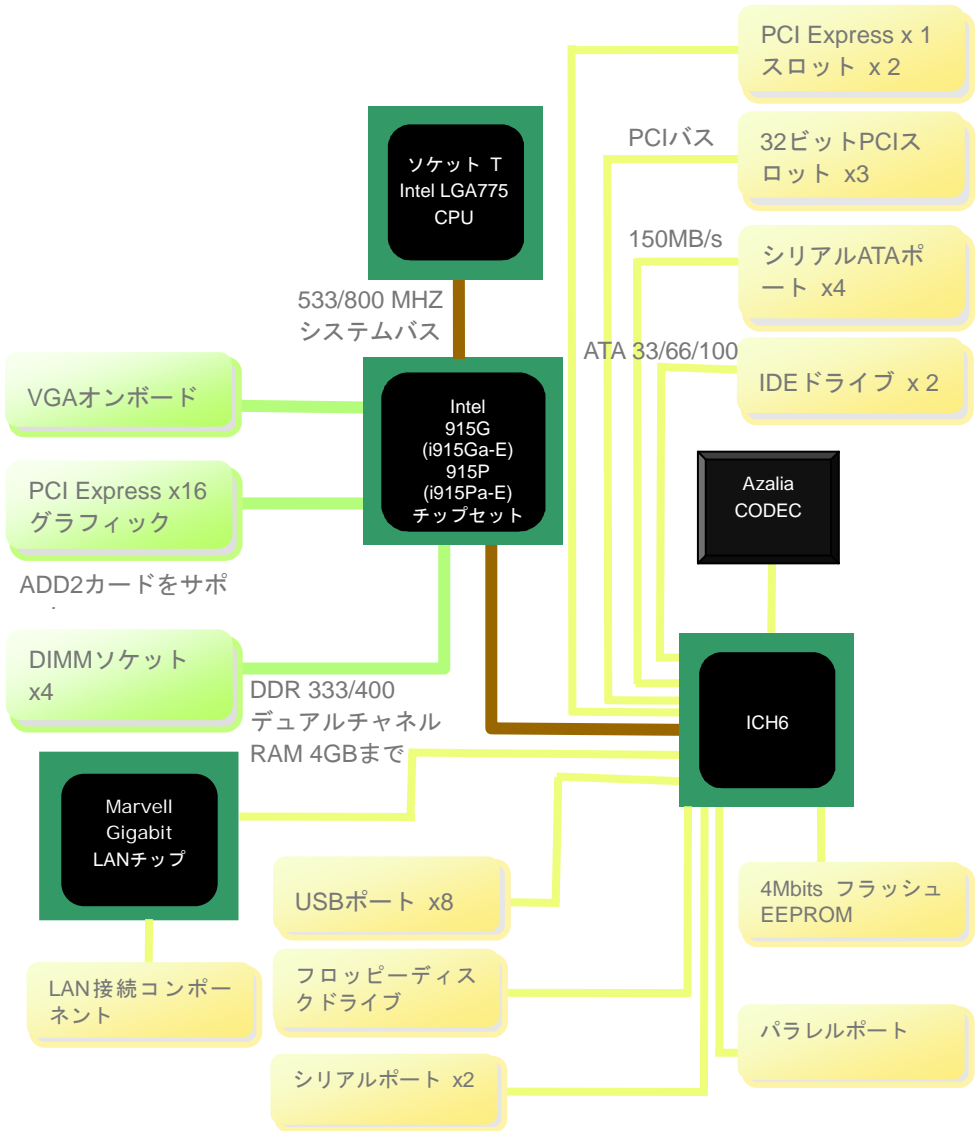
1. JP28 PS2 キーボード/マウス起動ジャンパー
2. COM2コネクタ
3. 4ピン 12V ATX電源コネクタ
4. SYSFAN1コネクタ
5. PCI Express x 16グラフィックス・スロット
6. Intel FC-LGA CPUをサポートするLGA775 CPUソケット
7. Intel 915G/ICH6 (i915Ga-E)
Intel 915P/ICH6 (i915Pa-E)
8. CPUファンコネクタ
9. スタンバイLED
10. 184ピン DIMMs x 4
11. ブートLED
12. ATX電源コネクタ
13. ATA 100 IDEコネクタ
14. CD_INコネクタ
15. オンボードHDオーディオCodec
16. 前面オーディオコネクタ
17. PCI Express x1 スロット x 2
18. S/PDIFコネクタ
19. Marvell Gigabit PCI Express LANチップ
20. IRDAコネクタ
21. ゲームポートコネクタ
22. 32ビット PCI拡張スロット x 3
23. ダイハドBIOS Lite
24. USB2.0コネクタ x 2
25. Case Openコネクタ
26. JP14 CMOSデータクリアジャンパー
27. フロッピーコネクタ
28. SYSFAN2コネクタ
29. 前面パネルコネクタ
30. シリアルATAポート X 4

2.2 仕様

お手持ちのマザーボードの主要な機能です。

モデル	i915Ga-E	i915Pa-E
チップセット	Intel 915G/ICH6	Intel 915P/ICH6
メインメモリー	デュアルチャネルモードDDR DDR 400 and DDR 333 DDR DIMM x 4 DIMMタイプ : 256/512MB & 1GB 最大メモリー : 4GB	デュアルチャネルモードDDR DDR 400 and DDR 333 DDR DIMM x 4 DIMMタイプ : 256/512MB & 1GB 最大メモリー : 4GB
グラフィックス	チップセットに一体型のVGAエンジン PCI Express x 16 グラフィックス・スロット ADD2カードをサポート	PCI Express x 16 グラフィックス・スロット
IDE	一体型ATA100とシリアルATAコントローラ 最大ディスク : 144,000,000GB [48ビットLBA仕様による]	一体型ATA100とシリアルATAコントローラ 最大ディスク : 144,000,000GB [48ビットLBA仕様による]
LAN	Marvell Gigabit PCI Express LANチップ	Marvell Gigabit PCI Express LANチップ
サウンド	7.1チャネル以上までのドルビーサウンドシステムをサポートするAzalia Codecオンボード	7.1チャネル以上までのドルビーサウンドシステムをサポートするAzalia Codecオンボード
USB	チップセットと一体型, USB 2.0 x 8	チップセットと一体型, USB 2.0 x 8
スロット	PCI Express x1スロットx 2 PCI Express x 16グラフィックス・スロットx 1 PCI スロット x 3	PCI Express x1スロットx 2 PCI Express x 16グラフィックス・スロットx 1 PCI スロット x 3
後部パネル I/O	PS/2キーボード x 1, PS/2マウス x 1 USBポートx 4, LANポートx 1, VGAポートx 1, COMポートx 1, プリンターポートx 1 スピーカー出力x 1, ライン入力x 1, マイク入力x 1, サイドSUR x 1, 後部SUR x 1 中央/サブウーハー x 1	PS/2キーボード x 1, PS/2マウス x 1 USBポートx 4, LANポートx 1, COMポートx 2, プリンターポートx 1 スピーカー出力x 1, ライン入力x 1, マイク入力x 1, サイドSUR x 1, 後部SUR x 1 中央/サブウーハー x 1
オンボードコネクタ	フロッピードライブコネクタ x 1 IDEチャネル : ATA100 x 1 シリアルATAチャネル x 4 前面パネル x 1 前面オーディオ x 1 CPUファン x 1, システムファン x 1, ケースファン x 1, 電源ファン x 1 電源温度コネクタ x 1 Case Openコネクタ x 1 S/PDIFコネクタ x 1 ゲームコネクタ x 1 CD_IN x 1, IrDA x 1, COM2 x 1, USB2.0コネクタ x 2	フロッピードライブコネクタ x 1 IDEチャネル : ATA100 x 1 シリアルATAチャネル x 4 前面パネル x 1 前面オーディオ x 1 CPUファン x 1, システムファン x 1, ケースファン x 1, 電源ファン x 1 電源温度コネクタ x 1 Case Openコネクタ x 1 S/PDIFコネクタ x 1 ゲームコネクタ x 1 CD_IN x 1, IrDA x 1, COM2 x 1, USB2.0コネクタ x 2
BIOS	Award PnP 4MbフラッシュROM BIOS	Award PnP 4MbフラッシュROM BIOS
ボードサイズ	305 mm x 244 mm	305 mm x 244 mm

2.3 構成図



第3章 ハードウェア・インストール

3.1 kクイック・インストールの手順



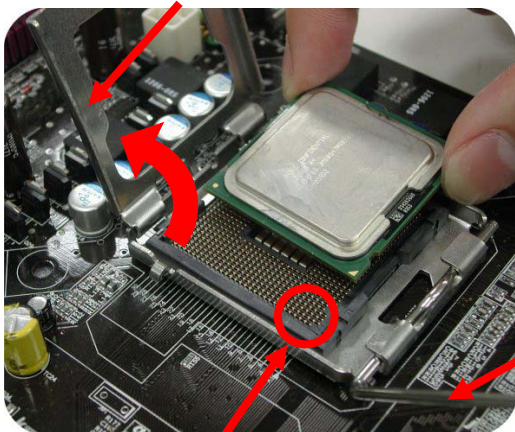
3.2 インストールのために知っておくべきこと

CPUをインストールする

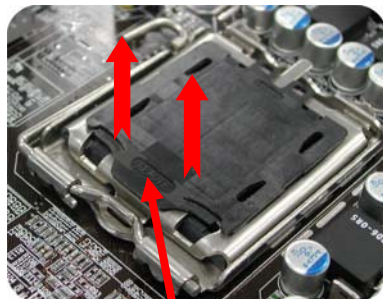
このソケットはIntelが開発した最新のCPUパッケージであるFC-LGA4 CPUをサポートしています。他の形状のCPUパッケージは納まりません。

1. CPUソケットレバーを90度の角度まで引き上げる。
2. ソケットのピン1を確かめ、CPU上部にある金色の矢印を探す。ピン1と金色の矢印を合わせる。次にCPUをソケットに差し込む。
3. CPUソケットプレートとレバーを押し込み、CPUのインストールは完了。

CPUソケットプレート

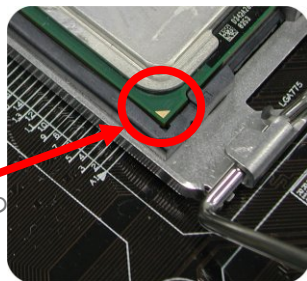


ソケットピン 1



プラスチックキャップ

CPUソケット



金色の矢印



警告 : CPUソケットのピン1とCPUの金色の矢印が合わない場合はCPUが破損するかもしれません。CPUをインストールしている時に、CPUソケットピンに触れないで下さい。



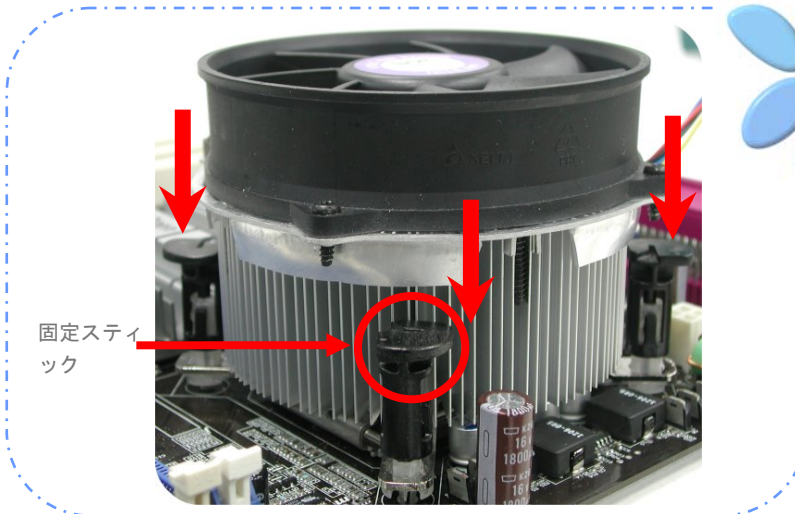
注意 : Prescott CPUから発生する過熱を回避するために、適切にサーマルペーストを使用するようIntelは強く勧めています。

CPUファンをインストールする

1. CPUソケット上の4つの取り付け穴に、正確に4本のスティックでCPUファンを優しく押し込んでください。



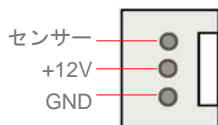
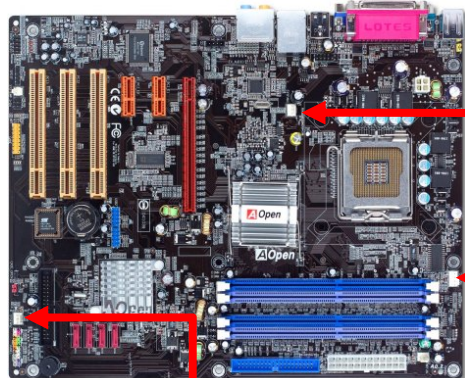
2. 一つずつ穴に4つの固定スティックを押し込んでください。スティックが穴にしっかりと固定されていることを確認してください。



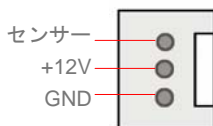
重要：上の写真のものは購入されたものと形状が異なるかもしれません。

CPUとシステムファンを接続する

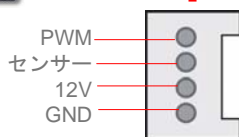
CPUファンケーブルを4ピンCPUFANコネクタに接続します。もしケースにファンがあれば、SYSFAN1かSYSFAN2コネクタに接続できます。



SYSFAN1コネクタ



SYSFAN2コネクタ

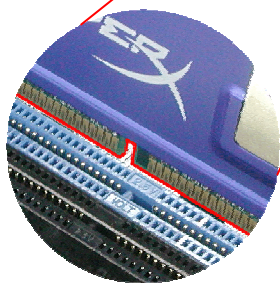
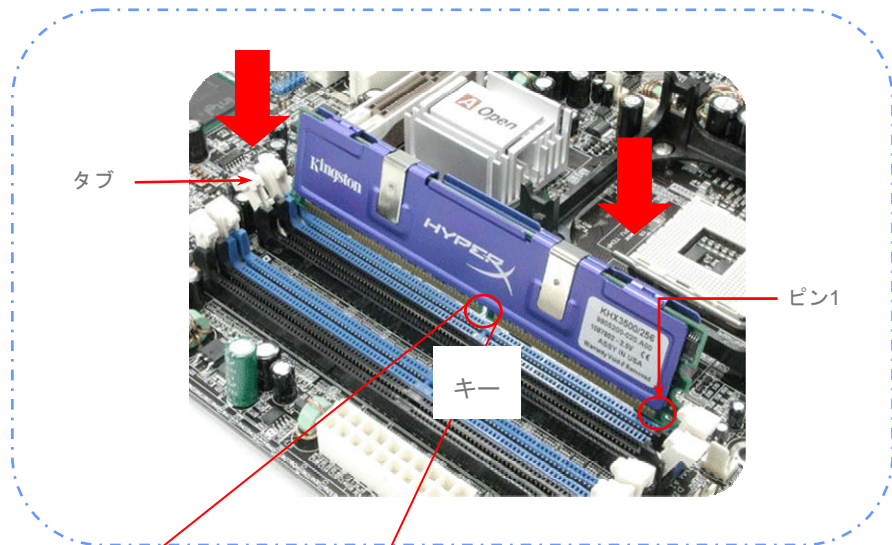


CPUFANコネクタ

重要: CPUファンの中にはセンサーがないものがあるので、その場合にはファンのモニターをサポートできません。

メモリーモジュールをインストールする

DIMMスロットは分かりやすいようにネイビーブルーに設計されています。モジュールを両手でまっすぐにDIMMスロットに挿入し、DIMMモジュールがしっかりと固定されるまで押し込んでください。



需要: DIMMスロットのタブはDIMMがスロットの底部に接触したときに、DIMMを固定するために持ち上がります。

デュアルチャネルのパフォーマンスを最大にする

デュアルチャネルの最高のパフォーマンスを得るために、DIMMの構成は以下の条件を満たしていなければなりません。

それぞれのチャンネルに適合するDIMM構成


- 同一密度 (128MB~1GB)

同一密度のメモリーモジュールをチャンネル 1 (DIMM A1 & DIMM A2) とチャンネル 2 に差し込む限り、デュアルチャネルモードが有効になります。

DIMM A1 + DIMM A2 = DIMM B1 + DIMM B2

例： 1GBメモリーモジュールをDIMM A1とDIMM A2に挿入すると、デュアルチャネルモードはDIMM B1 + DIMM B2 = 1GBのとき、有効になります。

- 同一DRAMバス幅 (x8またはx16)
- 片面、両面のどちらか

 **重要：**異なるチップのメモリーモジュールを使用するとシステム不安定の原因になります。

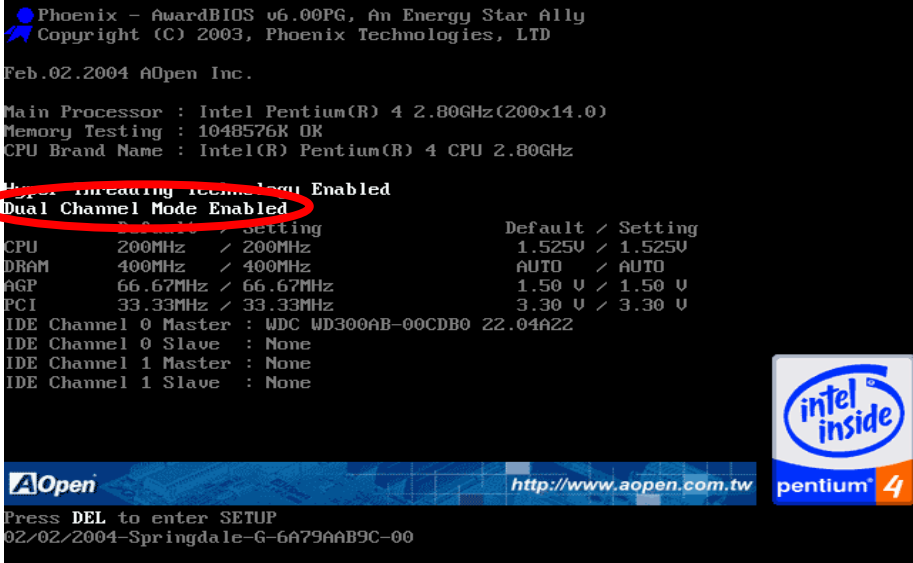
デュアルチャネルモードが上手く有効になると、POST画面の間に、“Dual Channel Mode Enabled”が画面に表示されます。

```
Phoenix - AwardBIOS v6.00PG, An Energy Star Ally
Copyright (C) 2003, Phoenix Technologies, LTD

Feb.02.2004 AOpen Inc.

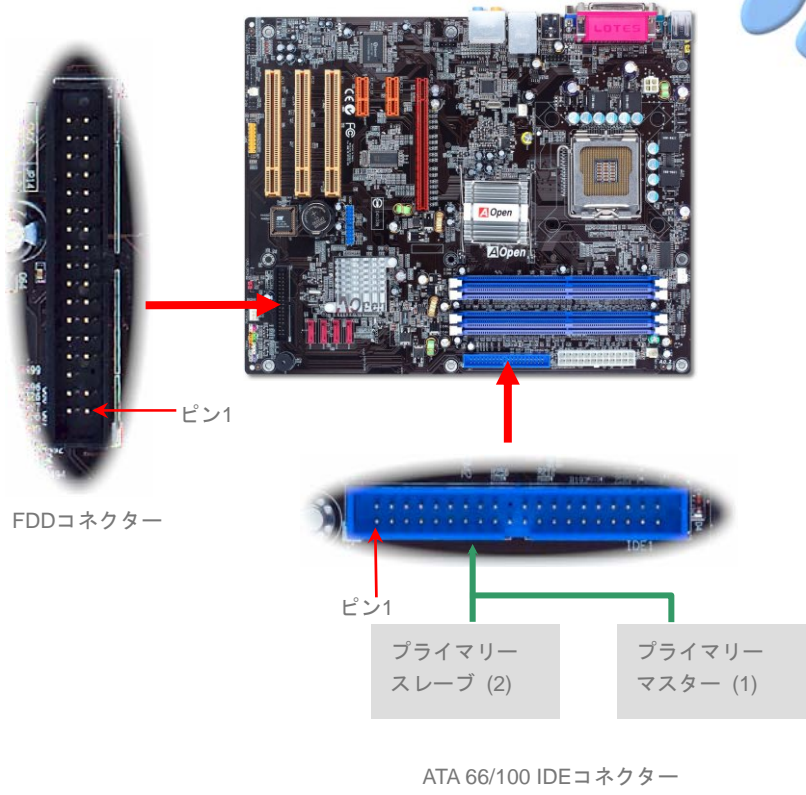
Main Processor : Intel Pentium(R) 4 2.80GHz(200x14.0)
Memory Testing : 1048576K OK
CPU Brand Name : Intel(R) Pentium(R) 4 CPU 2.80GHz

Hyper-Threading Technology Enabled
Dual Channel Mode Enabled
CPU 200MHz / Setting Default / Setting
DRAM 400MHz / 400MHz AUTO / AUTO
AGP 66.67MHz / 66.67MHz 1.50 V / 1.50 V
PCI 33.33MHz / 33.33MHz 3.30 V / 3.30 V
IDE Channel 0 Master : WDC WD300AB-00CDB0 22.04A22
IDE Channel 0 Slave : None
IDE Channel 1 Master : None
IDE Channel 1 Slave : None
```



IDEとフロッピーケーブルを接続する

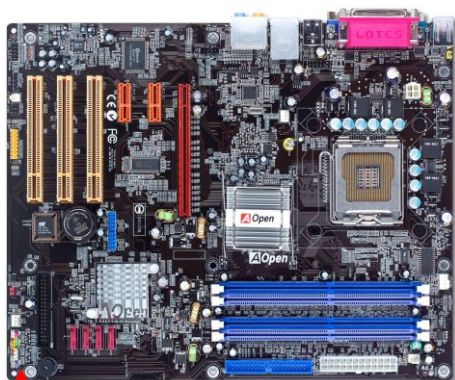
34ピンのフロッピーケーブルと40ピンか80ワイヤーIDEケーブルをフロッピーコネクタとIDEコネクタに接続します。ピン1の向きに注意してください。向きを間違えるとシステム損傷の原因になります。













前面パネルケーブルを接続する

電源LED、スピーカー、リセットスイッチコネクタを対応するピンに取り付けます。BIOS設定の“サスペンドモード”の項目を有効にすると、システムが“サスペンドモード”になっている間、ACPI & Power LEDが点滅します。

ATXケースの電源スイッチケーブルを確認してください。ケースの前面パネルの2ピンのメスのコネクタです。このコネクタを *SPWR* と記されたソフトパワースイッチコネクタに接続します。

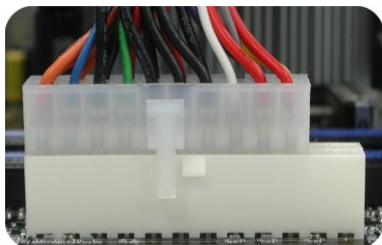
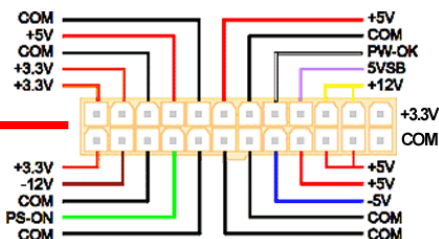
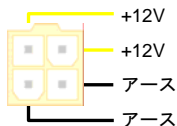
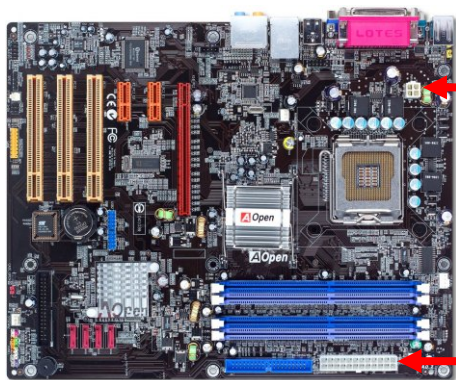


1		
NC		Power Switch
NC		GND
+5V		Power LED-
HDD LED		GND
HDD LED		Power LED+
+5V		NC
+5V		GND
GND		GND
NC		RESET
SPEAKER		GND

Front Panel Connector

ATX電源ケーブルを接続する

本マザーボードには下に示されているように、24ピンのATX 電源コネクタと4ピンの12V ATX電源コネクタがあります。正しい向きで差し込んでください。24ピンコネクタを差し込む前に4ピンコネクタを差し込んでおかれることを強くお勧めします。



重要： 24ピンのATX電源ケーブルがなければ、20ピンのATX電源ケーブルを左の写真に示しているように左端から接続してください。

3.3 参考としての他のインストール

CPU電圧と周波数を設定する

CPUのコア電圧を設定する

本マザーボードは、電源投入されている間CPU電圧を自動的に検知するVoltage ID (VID)機能をサポートしています。

CPUの周波数を設定する

本マザーボードはCPUのジャンパー不要設計のため、BIOS 中の1MHzずつのCPUオーバークロックを通してCPU周波数を設定できます。 **CPUコア周波数 = CPU FSBクロック x CPU 比率**。しかし、現在販売されている全てのCPUは "Fixed Multiplier (固定乗数)" に属しています。これはユーザーがCPU 比率を調整することはできず、オーバークロックのためにはCPU FSBクロックの変更しかできないという意味です。

BIOS設定 > 周波数 / 電源制御 > CPUスピード設定

(オーバークロックは自己責任の元行なって頂きますようにお願いします。)

CPU比率	8x, 10x... 24x, 25x, 26x, 27x, 28x
CPU FSB (手動での調整)	FSB = 100MHz-400MHz、1MHzずつのCPUオーバークロックによる

プロセッサ番号	プロセッサ周波数	FSB	CPU比率	キャッシュ
5 シリーズ				
580	4.00G	800MHZ	20x	1MB L2
570	3.80G	800MHZ	19x	1MB L2
560	3.60G	800MHZ	18x	1MB L2
550	3.40G	800MHZ	17x	1MB L2
540	3.20G	800MHZ	16x	1MB L2
530	3.00G	800MHZ	15x	1MB L2
520	2.80G	800MHZ	14x	1MB L2
3 シリーズ				
350	3.20G	533MHZ	24x	256K L2
345	3.06G	533MHZ	23x	256K L2
340	2.93G	533MHZ	22x	256K L2

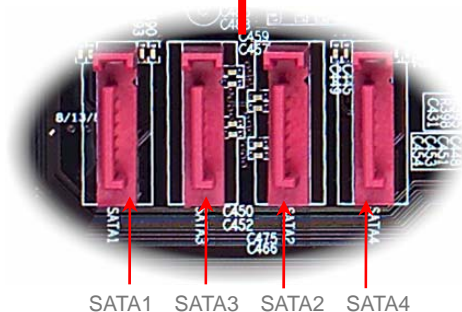
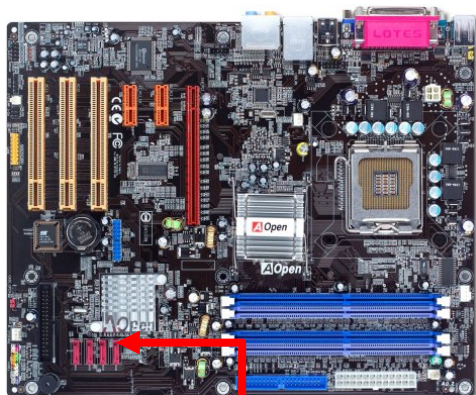
重要: CPUのスピードは急速に変化するため、このインストールガイドを手にする時点ではより高速のCPUがあるかもしれません。この表は参考のためのものです。詳細な情報については販売店と連絡を取ってください。



警告: Intel 915G/ 915Pチップセットは最大800MHz (200MHz*4)システムをサポートしません。クロック設定を高くするとシステムに深刻な損傷を起こすかもしれません。

シリアルATAを接続する

シリアルATAディスクを接続するために、7ピンのシリアルATAケーブルが必要です。シリアルATAケーブルの両端をマザーボード上のシリアルATAヘッダーとディスクに接続します。他の従来のディスクのように、電源ケーブルも接続します。ジャンパー不要であることに注意してください。マスターがスレーブディスクを定義するためにジャンパーを設定する必要はありません。シリアルATAハードディスクをシリアルATAポートにインストールするときは、自動的にPort SATA1に接続する方が最初に起動するブートデバイスになります。ホットプラグ機能をサポートしていないことに注意してください。



ハードディスクの設定を調整する

オリジナルの平行IDE一式を除いて、本マザーボードは最新のシリアルATAハードディスクをサポートしています。インストールをした後で、最新のインストールしたばかりのシリアルATAハードディスクがOS上に見つからないなら、BIOS設定に問題があるかもしれません。正しく機能するようにBIOS設定を調整できます。

ハードディスクを正しくインストールした後で、調整用のBIOS設定画面に進んでください。好みのモードを選択するために“**Integrated Peripherals → OnChip IDE Device → On-Chip Serial ATA**”の順に押してください。オリジナル設定の変更を希望されないのであれば、デフォルトは自動になっています。

The screenshot shows the Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility interface. The main menu is on the left, and the 'Integrated Peripherals' menu is expanded. The 'OnChip IDE Device' menu is selected, showing various IDE settings. The 'On-Chip Serial ATA Setting' is highlighted, showing 'On-Chip Serial ATA' set to 'Auto' and 'SATA Port' set to 'SATA3,SATA4 Secondary'.

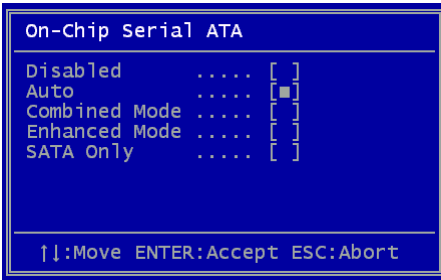
```
Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
├── Standard CMOS Features          Load Setup Defaults
├── Advanced BIOS Features          Load Turbo Defaults
├── Advanced Chipset Features       Set Password
├── Integrated Peripherals        Save & Exit Setup
├── Power
├── PnP/PCI
├── Silder
├── Frequency
├── Esc : Out
├── F10 : Save

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Integrated Peripherals
├── OnChip IDE Device              Press Enter
├── SuperIO Device                 Press Enter
├── USB Controller                  Enabled
├── USB 2.0 Controller              Enabled
├── USB Keyboard Support            Auto
├── Onboard Audio Codec             Enabled
├── Onboard LAN Control             Enabled

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
OnChip IDE Device
├── IDE HDD Block Mode              Enabled
├── On-Chip Primary PCI IDE         Enabled
├── IDE Primary Master PIO          Auto
├── IDE Primary Slave PIO           Auto
├── IDE Primary Master UDMA         Auto
├── IDE Primary Slave UDMA          Auto
├── On-Chip Secondary PCI IDE       Enabled
├── IDE Secondary Master PIO         Auto
├── IDE Secondary Slave PIO         Auto
├── IDE Secondary Master UDMA       Auto
├── IDE Secondary Slave UDMA        Auto
├── *** On-Chip Serial ATA Setting ***
├── On-Chip Serial ATA              Auto
├── × PATA IDE Mode                  Primary
├── SATA Port                        SATA3,SATA4 Secondary

Item Help
Menu Level ▶▶
[Disabled]: Disabled
SATA Controller.
[Auto]: Auto arrange
by BIOS.
[Combined Model]: PATA
and SATA are combined
. Max.of 2 IDE drives
in each channel.
[Enhanced Model]:
Enable both SATA and
PATA. Max.of 6 IDE
drives are supported.
[SATA Only]: SATA is
operating in legacy
mode.

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults
```



デフォルト設定の変更を望まれるなら、選択リストのためにEnterを押します：

Disabled (無効)： 従来のIDEハードディスクだけがシステムにインストールされているならこの項目を選択できます。この項目を無効にすると、POSTの最中にシリアルATAハードディスクの検知をキャンセルします。論理的にはブートの時間がわずかに早まりますが、後になってシリアルATAハードディスクを使用する

ときにはこの設定を再調整することを忘れないで下さい。

Auto (自動)： これが本マザーボードの出荷時のデフォルト設定です。基本的には、システムが正しく機能していれば、変更する必要はありません。システムはプライマリーとしてPATA (IDE)を自動的に認識します。

Combined Mode (統合モード)： 従来のIDEハードディスクとシリアルATAハードディスクを同時にインストールするには、このモードを選択します。このモードでは、最初にブートするデバイスとしてIDEハードディスクかシリアルATAハードディスクをランダムに選択できます。しかしマッピングでは、IDEがATAと共に存在することに注意してください。つまりシリアルチャネルの一つが占有され、シリアルチャネルが一つしか残らなくなるという意味です。PATAモードがプライマリーとして設定されると、SATA3とSATA4はセカンダリーになります。PATAモードがセカンダリーに設定されるとSATA1とSATA2がプライマリーになります。

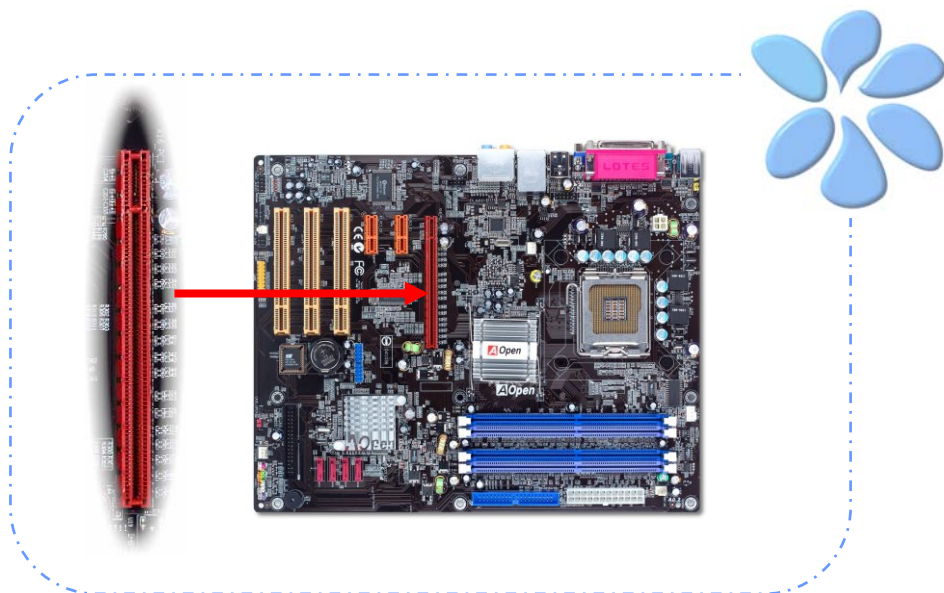
Enhanced Mode (拡張モード)： 最新のOS (例：Windows XP, Windows.NET Server)をお使いであれば、Enhanced Modeを選択されるよう強くお勧めします。このモードではシステムは6つのデバイス全て (従来型IDE x 2, シリアルATA x 4) をしっかり認識し、正しく機能します。しかし、PATAモードはこのモードではプライマリーに設定されることに注意してください。

重要： ラボでの実用実験によれば、Windows2000のOSの元でこのモードが設定されているときには、目立った問題やミスはありませんが、Intelは推奨していません。

SATA Only: シリアルATAハードディスクをインストールするときのみ、このモードを選択できます。

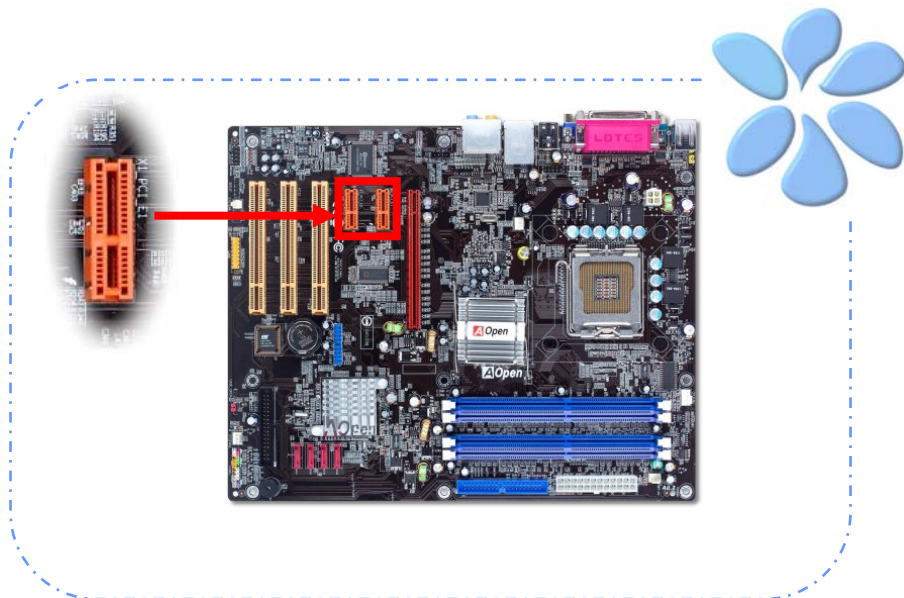
PCI Express x 16グラフィックススロットを接続する

i915Ga-E / i915Pa-EはPCI Express x 16グラフィックススロットを提供します。これはマザーボード上に最新のPCI Express x 16仕様を持つ赤色のスロットです。PCI Express x 16は高品質の3Dグラフィックスをターゲットにしたバス・インターフェイスです。従来は、AGPが8X AGP用の66MHzクロックの最盛期と後退期の両方で使用され、データ転送率は2.1GB/sに達しました。現在PCI Express x 16はさらに早いデータ転送率へと進歩し、8.0GB/s (250MB/s x 16 x 2、各向きに4GB/s)までにアップグレードされました。i915Ga-E用として、PCI Express x 16スロットは自動的にPCI Express x 16グラフィックスや、多重化Intel DVO出力を認識します。これはPCI Express x 16グラフィックスやADD2 (AGP Digital Display 2)カードなど、どのカードが挿入されているかによります。このスロットに装備されているADD2カードと合わせて、多重化Intel DVO出力はデジタルディスプレイやTV-OUT機能のために高速なデジタル接続を提供します。



PCI Express x 1 スロットを接続する

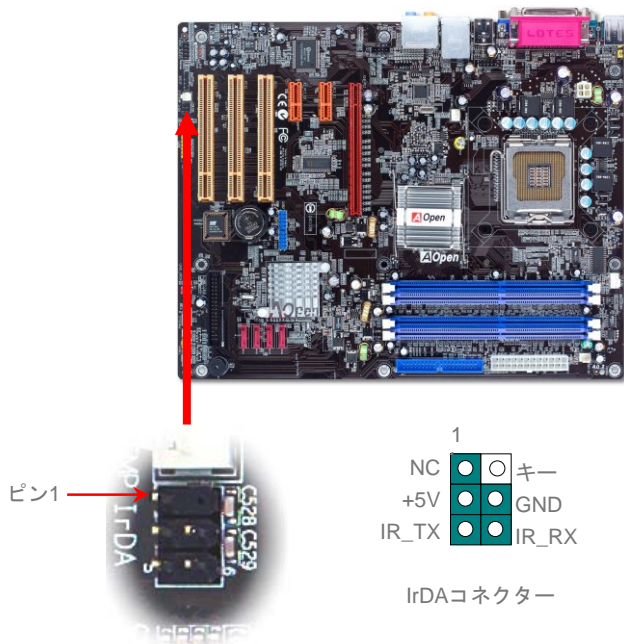
本マザーボードはPCI Express x 1 スロットを一つ提供しています。これはPCI Express x 16 と従来のPCIスロットの間に位置します。現在と明日のプロセッサと同調するために、PCI Express x 1はより広域なI/Oバンド幅を提供します。転送データ率は平行して500MB/s (各向きに250MB/s)を達成しました。これは従来のPCIのデータ転送率のほぼ4倍に迫っています。好みに応じてどのようなPCI Express x 1 デバイスでもスロットにインストールできます。



IrDAを接続する

IrDAコネクタはワイヤレス赤外線モジュールをサポートするように設定できます。このモジュールとLaplink、Windows Direct Cable Connectionのようなアプリケーションを使って、ユーザーはファイルをラップトップ、ノートパソコン、PDA装置やプリンターに転送できます。このコネクタはHPSIR (115.2Kbps, 2 meters)とASK-IR (56Kbps)の両方をサポートしています。

赤外線モジュールをIrDAコネクタにインストールし、BIOS設定のUARTモードから赤外線機能を有効にすると、この機能を使用できます。IrDAモジュールを差し込むときは、正しい向きに差し込んでいることを確認して下さい。



1	NC	○	キー
	+5V	●	GND
	IR_TX	●	IR_RX

IrDAコネクタ

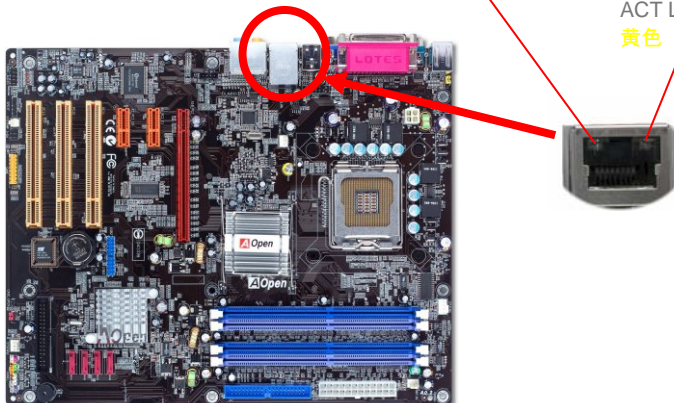
10/100/1000Mbps LANをサポート

ボード上のギガサイズの強度のLANコントローラーについては、本マザーボードはオフィスと家庭の用途のために10/100/1000Mbps Ethernetを提供しています。Ethernet RJ45コネクタはUSBコネクタのトップに位置しています。右側のLEDはリンクモードを示していて、ネットワークとリンクされていると黄色に点灯します。左側のLEDは転送モードを示していて、データが100Mbps（10Mbpsだと点灯しない）で転送されていると緑に点灯します。しかしギガビットモードで転送されているとオレンジに点灯します。この機能を有効、無効にするにはBIOSを通して調整してください。LANの起動機能を有効にするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションで“Wake on PCI Card”を有効にセットしなければなりません。



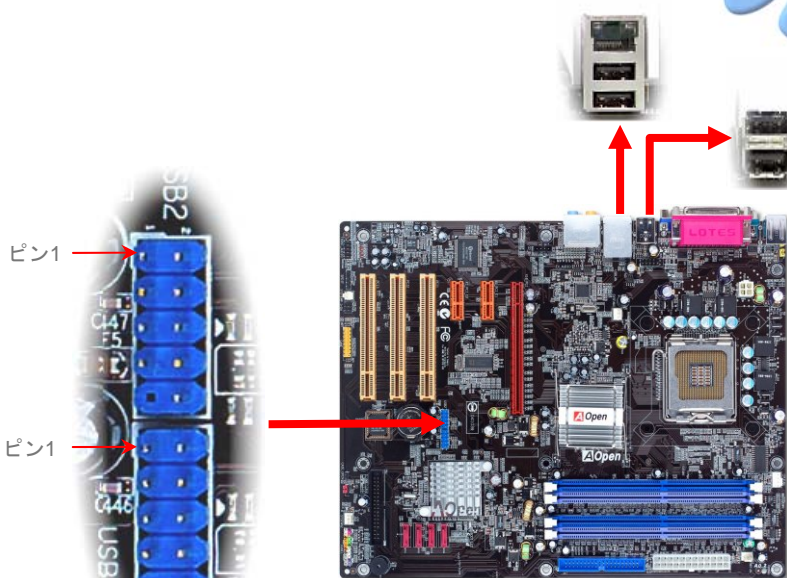
速度LED (左)
緑 100Mbps
オレンジ ギガビットモード

ACT LED (右)
黄色



USB2.0を接続する

本マザーボードはマウス、キーボード、モデム、プリンターなどのUSB装置に接続できるよう8つのUSB 2.0ポートを備えています。後部パネルにはポートが4つあります。前面USBコネクタをUSBモジュールやケースの前面パネルに接続するために適切なケーブルを使えます。

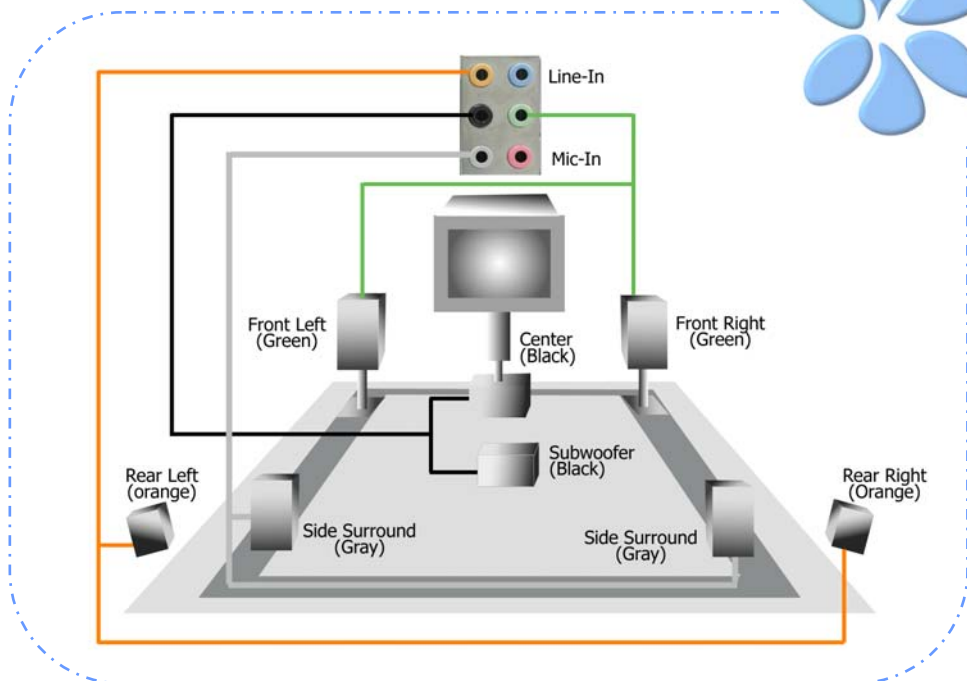


	1	
+5V	●	+5V
SBD6-	●	SBD7-
SBD6+	●	SBD7+
GND	●	GND
KEY	○	NC

USB 2.0 Connector

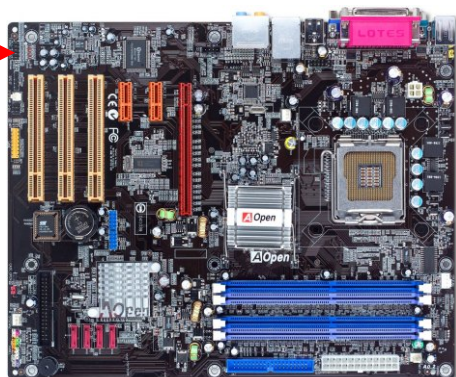
スーパー7.1チャンネルオーディオ効果

本マザーボードにはRealtek ALC880 CODECが付いており、音響効果において高品質な最新の7.1チャンネルをサポートしています。これによって全く新しいオーディオ体験ができるでしょう。本マザーボードは以下に示される7.1チャンネルを提供しています。図は7.1チャンネルサウンドトラックの全てのスピーカーの位置を示しています。前面スピーカーのプラグを緑の“Speaker out (スピーカー出力)”ポートに、後部のサラウンドスピーカーをオレンジのポートに、側面のサラウンドスピーカーを灰色のポートに、中央とサブウーハースピーカーの両方を後部パネルの黒色のポートに接続してください。



前面オーディオを接続する

もしケースの前面パネルにオーディオポートが付いていれば、このコネクタを通してオンボードオーディオを前面パネルに接続できます。フロントオーディオポートが正しく動作するように、ケースのフロントオーディオパネルには高品位オーディオジャック装備のものをご使用ください。フロントオーディオパネルが高品位オーディオジャック対応でない場合は、メンバーの後部パネルのマイク端子に接続することを強くお勧めします。



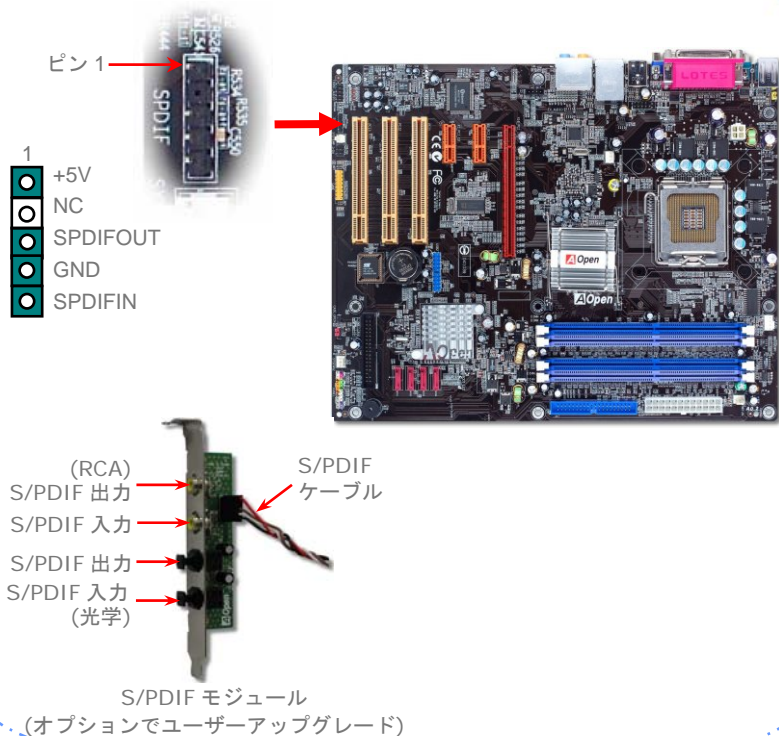
SENSE2_RETURN	●	●	PORT2L
キー	○	●	SENSE_SEND
SENSE1_RETURN	●	●	PORT2R
PRESENCE#	●	●	PORT1R
GND	●	●	PORT1L

1



S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)を接続する

S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)は最新のオーディオ転送ファイルフォーマットです。これは光ケーブルを通して優れたオーディオ品質を提供し、アナログオーディオの代わりにデジタルオーディオを楽しんで頂くことを可能にしています。特定のオーディオケーブルを通して、S/PDIFコネクタをS/PDIFオーディオモジュールの他方の端に接続できます。これがS/PDIFデジタル出力を担います。通常は以下に示されるように2つのS/PDIF出力があり、一つはRCAコネクタ用、つまり消費されるオーディオ製品に使用される最も一般的なもの、そして他方はより良いオーディオ品質のための光学コネクタ用です。出力のように、RCAあるいは光学オーディオ製品をモジュールのコネクタにインプットしたり、コンピューターから出る音声や音楽をとるために接続することもできます。しかし、この機能を最大限に活用するために、S/PDIFデジタル入力/出力に接続できるよう、S/PDIFデジタル入力/出力を備えた、S/PDIFをサポートするスピーカー/アンプ/デコーダーが必要です。

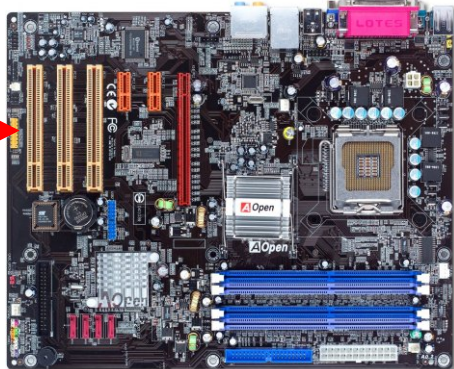


ゲームポートを接続する

本マザーボードにはゲームポート(Joystick-Midi)が付いており、どのMIDI装置やジョイスティックにも接続できます。この機能を使用するためには、ジョイスティックモジュールが必要で、マザーボードのこのポートにゲームポートを接続します。



ピン1



	1	2			
+5V	●	●	+5V		
JAB1	●	●	JBB1		
JACX	●	●	JBCX		
GND	●	●	MIDI_TXD		
GND	●	●	JBCY		
JACY	●	●	JBB2		
JAB2	●	●	MIDI_RXD		
+5V	●	○	KEY		
	15	16			

Game Port Connector



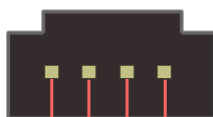
(オプションでユーザーアップグレード)

CD_INを接続する

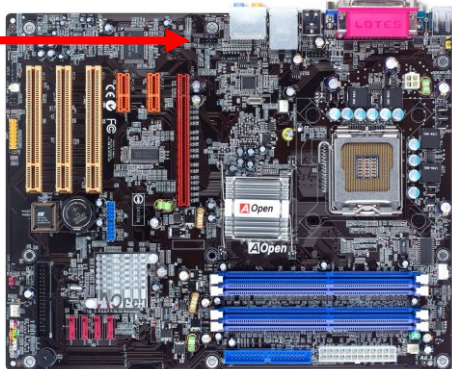
このコネクタはオンボードサウンドのために、CDROMやDVDドライブからCDオーディオケーブルに接続するよう設計されています。



CD-IN Connector



R GND GND L



Case Openを接続する

“CASE OPEN”ヘッダーはケースへの侵入監視機能を提供しています。この機能を実行させるには、システムBIOSの中でそれを有効にし、このヘッダーをケースの中のセンサーに接続しなければなりません。センサーが光や、ケースが開けられて誘発させられると、システムはビープ音で知らせます。この便利な機能は先進のケースのみに適用できることをお知らせします。余分なセンサーを購入し、ケースに接続し、この機能を十分にお使いください。

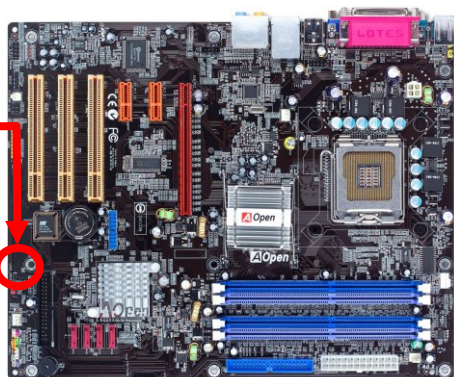


ピン1



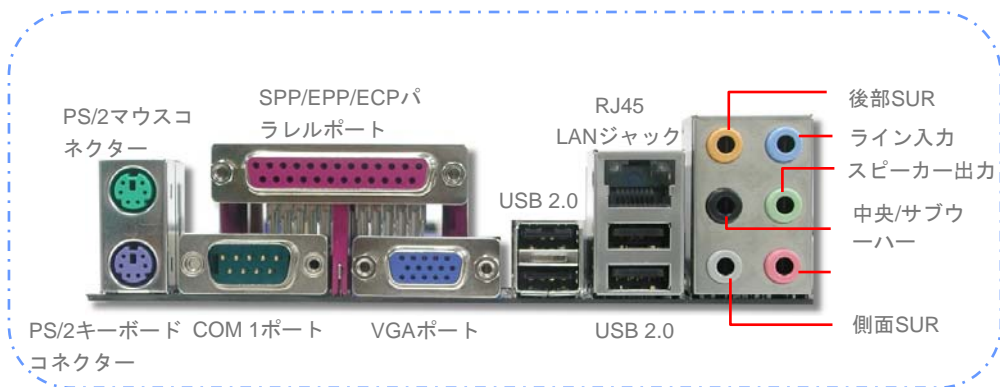
- 1 センサー
- GND

侵入センサー



色分けされた後部パネル (i915Ga-E用)

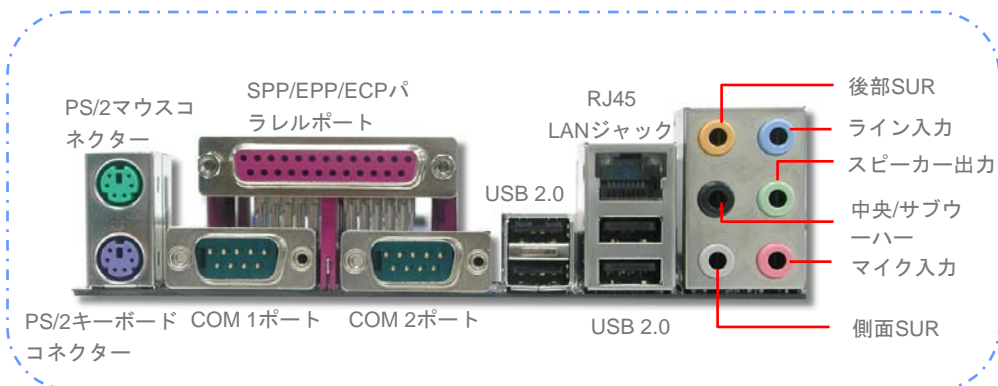
オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクター、COM1、VGAポート、プリンター、USB、Azaliaサウンドとゲームポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



- PS/2キーボード:** PS/2プラグを使用する標準的なキーボード
- PS/2マウス:** PS/2プラグを使用するPCマウス
- パラレルポート:** SPP/ECP/EPPプリンターと接続
- COM1ポート:** ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと接続
- RJ-45 LANポート:** 家庭用、事務所用Ethernetと接続
- VGAコネクター:** PCモニターと接続
- USBポート:** USBデバイスとの接続用
- 側面SUR:** 側面サラウンドスピーカー用
- 中央&サブウーハー:** 中央、サブウーハースピーカー用
- 後部SUR:** 後部スピーカー用
- スピーカー出力:** 外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用
- ライン入力:** CDやテープなどのシグナルソースから
- マイク入力:** マイク用

色分けされた後部パネル (i915Pa-E用)

オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、COM2、プリンター、USB、Azaliaサウンドとゲームポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



PS/2キーボード: PS/2プラグを使用する標準的なキーボード

パラレルポート: SPP/ECP/EPPプリンターと接続

COM1とCOM2ポート: ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと接続

RJ-45 LANポート: 家庭用、事務所用Ethernetと接続

USBポート: USBデバイスとの接続用

側面SUR: 側面サラウンドスピーカー用

中央&サブウーハー: 中央、サブウーハースピーカー用

後部SUR: 後部スピーカー用

スピーカー出力: 外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用

ライン入力: CDやテープなどのシグナルソースから

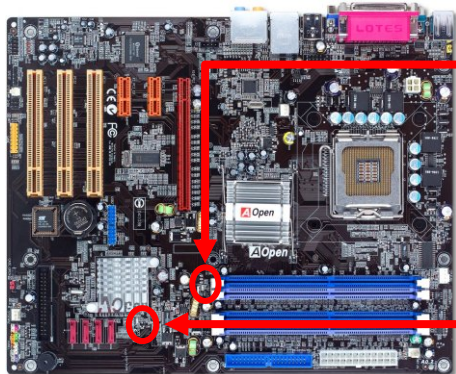
マイク入力: マイク用

LED表示

LED表示にはブートLEDとスタンバイLEDが含まれており、AOpenは使い勝手のよいシステム情報を提供することを目標に設計しました。

STBY LED(スタンバイLED)は電源がマザーボードに提供されているときに点灯します。システム電源の状態を確認するために便利な表示です。確認できる状態としては、電源のオン・オフ、スタンバイモードやサスペンドからRAMモードの間のRAM電源状態などがあります。

BOOT LED(ブートLED)はシステムがオンの時と、システムがPOST（パワーオン・セルフテスト）の時に点滅します。POSTが全て正常であることを診断しブートが終了した後で、LEDは点灯になります。POSTの間に発生したエラーを警告するときはその後も点滅しています。



STBY LED

BOOT LED

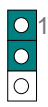


3.4 ジャンパー設定

JP28キーボード /
マウス起動ジャンパー

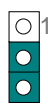
本マザーボードはPS2キーボード / マウス起動ジャンパー機能を提供しています。

JP28 KB/マウス起動ジャンパー

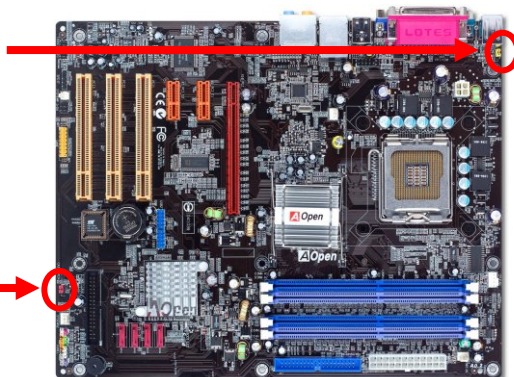


無効

(デフォルト)



有効



JP14 クリアーCMOSジャンパー



通常

(デフォルト)



クリアー

CMOS

JP14 クリアー

CMOSデータ

システムのデフォルト設定を回復することによってCMOSをクリアーできます。CMOSをクリアーするために、以下の手順に従ってください。

1. システムの電源を切り、AC電源を抜く。
2. PWR3コネクタからATX電源ケーブルを外す。
3. JP14を確認し、ピン2-3を2、3秒間短絡する。
4. ピンの1と2を短絡することで、JP14を通常の設定に戻す。
5. ATX電源ケーブルを元のPWR3コネクタに接続する。

第4章 特別な機能とユーティリティー

SilentTek – ノイズよさらば!



CPUのクロックが急速に高速になると、それに比例して高熱とシステム温度を避けられません。しかし、この熱問題の対処の仕方としては、マシンをできる限り冷ましてくれることを期待しながら、大切なシステムを保護するために次々にファンを増設することです。

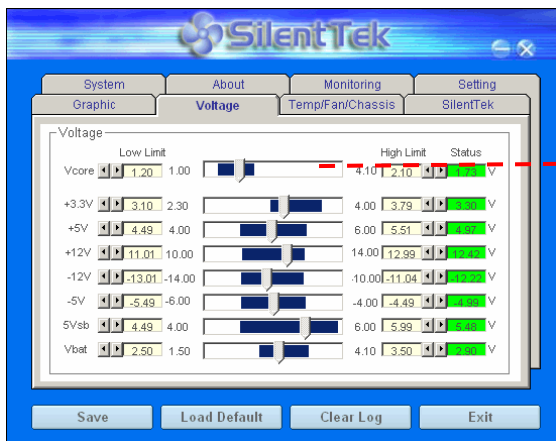
しかし同時に、PCを使用中にこれらのシステムファン、電源ファン、VGAファンの不快なノイズにひどく影響を受けるユーザーがおられることと思います。実のところ、ほとんどの場合そうした高速でファンを動かす必要はありません。それとは反対に、適切な時間と速度でファンを動かすと、ノイズを減少させるだけでなく、システムが必要とする最小の電力を消費することを発見しました。エネルギー資源の過剰消費を避けられるのです。

ここにAOpenマザーボードは新しい総合的なソリューションとして、システムを静かにできるSilentTekを提供できるのは光栄です。ハードウェア回路、BIOS、Windowsのユーティリティーをひとまとめにするために、SilentTekはノイズ、システム・パフォーマンス、安定性のパーフェクトなバランスを提供するユーザーになじみやすいインターフェイスの中で“Hardware-Status Monitoring”、“Overheat Warning”、“Fan Speed Control”を統合しました。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility				Item Help
SilentTek Control				Menu Level ▶▶
GPUFAN	Boot Speed	70%	2800 RPM	This is initial fan speed when power-on. "50%" means half of full speed, "100%" means full speed. Note: During POST stage, the fan will be controlled by the mode you specified in the item "Fan Mode".
SYSFAN1	Boot Speed	70%	---- RPM	
SYSFAN2	Boot Speed	70%	None	
PWRFAN	Boot Speed	70%	None	
Fan Mode		Full Speed		
x GPUFAN	Fixed Speed	100%	4000 RPM	
x SYSFAN1	Fixed Speed	100%	---- RPM	
x SYSFAN2	Fixed Speed	100%	None	
x PWRFAN	Fixed Speed	100%	None	
x CPU Set	Temp.	40° C		
x SYS Set	Temp.	30° C		
x PWR Set	Temp.	30° C		
GPUFAN	OS Speed	100%	4000 RPM	
SYSFAN1	OS Speed	100%	---- RPM	
SYSFAN2	OS Speed	100%	None	
PWRFAN	OS Speed	100%	None	

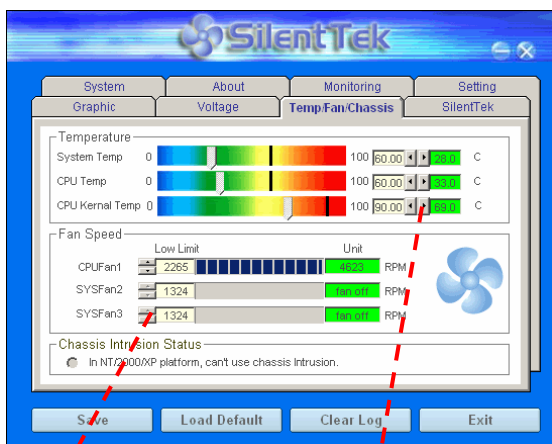
↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD=Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults

この最初の図は電圧状態のページです。すべての電圧の現在の状況が分かり、推測される警告レベルの限界を設定できます。



自分のシステムの電圧を
ここの表示バーから確認
できます。

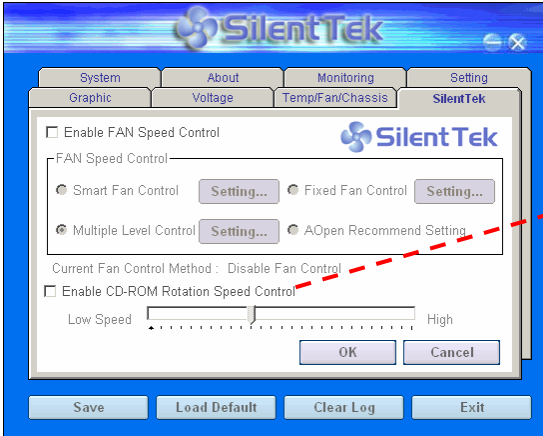
“Temp/Fan/Case”ページでは、CPUの現在の温度とケース内部の熱が分かります。またファンが適切に動いているかどうかの確認もできます。



もちろん、ファンのために最下限をデフォルトに設定してもかまいません。SilentTekはファンがこの特定されたスピードより遅く回転するときには、アラームと共に警告のためのメッセージボックスをポップアップします。

CPU、システム温度の際上限をデフォルトとして設定してもかまいません。SilentTekは特定した限界よりも温度が越えるときに、アラームと共に警告のためのメッセージボックスをポップアップします。

続くページはこのユーティリティの中で最も重要な部分です。このページの中のオプションを使って、特定のファンの回転速度を制御できます。



CD-ROM Rotation Speed Control (CD-ROM回転速度制御)：CD-ROM Rotation Speed Controlを有効にすることにより、CD-ROMの回転速度を調整できます。速度をハイレベルに設定すると、CD-ROMは最高速で動き、値を低速に設定すると、基本的に求められている速度で動きます。

Smart FAN Control: これがSilentTekのデフォルト設定で、どのような種類のコンピューターケースにも使用できます。AOpenで開発されたアルゴリズムにより、ファンの速度がCPUのパラメーターとその周囲の温度要因により自動的に調整されます。ご利用に際して使いやすく、トラブルがありません。

Fixed FAN Control: この設定の元では、作動しているときに望んでいるファンの速度が固定で設定されています。

Multiple Level Controls: これが最も融通の効く設定で、ファンの速度を温度との関係で設定します。自分にとって一番合う設定が見つかるかもしれません。

AOpen Recommend Setting (AOpenが推奨する設定)： この設定はAOpenケースのために特別に設計されました。実験室での一連の試験では、CPUの稼働状態と温度の範囲内でノイズレベルを減少される最適なファンの速度を決めるために、現実のシナリオのもとで行われました。多くの場合、CPUが十分に活用されていないときには、ファンは静止していました。

重要： 一般に販売されている数百種類のファンのために、回転速度を調整するとき不正なことが起こるかもしれません。しかし基準値内であり、システムに問題を起こすようなことはありませんのでご安心ください。

他の便利な機能

R&Dチームの優れた設計能力により、AOpenは下記のような弊社製品に付属する多様で強力、そして手ごろな機能に自信をもちしております。そうした機能についてさらに学ばれるよう、私たちのテクニカルウェブサイトを訪問なさってください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



第5章 BIOSを設定する

紹介

システムのパラメーターはBIOS設定メニューに入って調整できます。このメニューではシステムパラメーターを設定したり、128バイトのCMOSエリア（通常はRTCチップかメインチップセットの中）に構成を保存できます。

マザーボードのFlash ROMがインストールされているPhoenix-Award BIOS™は業界標準BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブ、シリアル、パラレルポートなどの標準的なデバイスのための重要な低層レベルでのサポートを提供しています。

AOpenのR&Dエンジニアリングチームは本マザーボードのほとんどのBIOS設定を最適化しました。しかし、BIOSのデフォルト設定のあるものはチップセットで制御されている部分を微調整できませんでした。そのため、この章では幾つかの設定を調整する手助けをすることを意図しています。

BIOS設定メニューに入るため、画面にPOST（パワーオン・セルフテスト）が表示されるとキーを押してください。



重要： BIOSコードはマザーボード上で最も頻繁に変更される部分なので、このマニュアルに含まれるBIOS情報はお手元のマザーボードに付属するBIOSバージョンとは異なる場合があります。

Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方

一般的に、選択したい項目は矢印キーを使って強調し、選択のためには<Enter>キーを押します。値を変更するには<Page Up>と<Page Down>キーを使います。Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムを終了するには<Esc>キーを押します。以下の表はPhoenix-Award™ BIOS設定プログラムの中でキーボードの使い方の詳細を示しています。

キー	説明
Page Up か +	設定を次の値に変更するか、値を増やす。
Page Down か -	設定を前の値に変更するか、値を減らす。
Enter	項目を選択する。
Esc	メインメニュー：変更を保存せずに終了。 サブメニュー：現在のメニューからメインメニューへ戻る。
↑	前の項目を強調する。
↓	次の項目を強調する。
←	バーをメニューの左端に移動させる。
→	バーをメニューの右端に移動させる。
F6	CMOSからセットアップデフォルト設定値をロードする。
F7	CMOSからターボ設定値をロードする。
F10	変更された設定を保存し、セットアッププログラムを終了する。

BIOS設定への入り方

ジャンパー設定を終え、ケーブルを接続してから、電源を投入しBIOS設定に入ることができます。POST（パワーオン・セルフテスト）の間にキーを押し、推奨最適パフォーマンスのために"Load Setup Defaults"を選択してください。

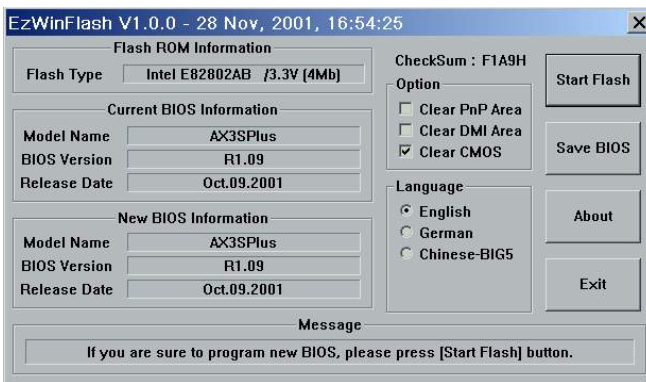


Windows環境でのBIOSアップグレード



AOpenの優れたR&D能力により、全く新しいBIOSフラッシュウィザード -EzWinFlash- をお届けします。ユーザーの便宜を視野に入れ、EzWinFlashはBIOSバイナリコードとフラッシュモジュールの両方を統合しました。そのためユーザーがすることはウェブからダウンロードしたユーティリティをクリックするだけです。後は自動的にフラッシュのプロセスを完了するのをお手伝いします。EzWinFlashはマザーボードを検知し、BIOSのバージョンを確認し、システムを起こりえる失敗から守ってくれます。さらに、EzWinFlashは皆さんがお使いのどのWindows環境でも機能できるように考慮されていますので、Windows 95/98、98SE/ME、NT4.0/2000、あるいはWindows XPをお使いでもかまいません。

同時に、一層ユーザーが扱いやすい動作環境を提供するため、AOpenのEzWinFlashはBIOS設定の変更をより容易にできるように多言語機能を持つよう設計されています。



注意： システムをアップデートするときにはBIOSフラッシュの失敗というリスクがあります。もしマザーボードが安定して機能しているのであれば、最新のBIOS更新版で修正しなければならないようなバグはありません。その場合はBIOSのアップグレードをされないようお勧めします。アップグレードを計画されているのであれば、起こりうる失敗を回避するために、手元のマザーボードの正確なBIOS更新版を持っていることをお確かめください。

重要： この BIOS の写真にあるモデル名は参照のためだけのものです。お手持ちのマザーボードと同一のモデルではないかもしれません。



以下のステップに従ってEzWinFlashでBIOSアップグレードの手順を完了できます。アップグレードを開始する前に、全てのアプリケーションを閉じておかれるよう強くお勧めします。

最新版のBIOSパッケージのZIPファイルをAOpen公式ウェブサイトからダウンロードしてください。(例：<http://english.aopen.com.tw>)

ダウンロードしたBIOSパッケージ(例：WSGMAXII102.ZIP)をWindows環境の中で、WinZip(<http://www.winzip.com>)を使って解凍してください。

解凍されたファイルをフォルダーに保存してください。例：WSGMAXII102.EXE、WSGMAXII102.BIN

WSGMAXII102.EXEをダブルクリックします。するとEzWinFlashはマザーボードのモデル名とBIOSバージョンを検知します。BIOSが違っていれば、フラッシュのステップを続行することはできません。

メインメニューで言語を選択し、次にBIOSアップグレードの手順を開始するために[Start Flash]をクリックします。

EzWinFlashは全てのプロセスを自動的に完了します。ダイアログボックスが表示され、Windowsを再起動するよう促します。Windowsを再起動するために[YES]をクリックしてください。

BIOS設定画面に入るため、POSTの時点でキーを押します。“Load Setup Defaults”を選択し、次に“Save & Exit Setup”を選択すれば終了です。

フラッシュの過程で電源を切ったり、他のアプリケーションを実行したりしないよう強くお勧めします。



警告：新しいBIOSアップグレードはフラッシュしてしまうと元々のBIOS設定を恒久的に置き換えてしまいます。システムが通常通りに使用する前にBIOS設定を再構成する必要があります。



皆さんはPOST画面が古臭く、変わり映えしないのに辟易されたことはありませんか？それではPOST画面は堅苦しく、温かみがないという従来の考え方をやめてしましましょう。明るくてカラフルなPOST画面を体験するため、AOpenが新しく開発したVividBIOSをお見せしましょう！

初期のグラフィックPOST画面とは違い（全画面を占領し、POSTの間はテキストの情報で覆われていた）、AOpenのVividBIOSはグラフィックスとテキストを別々に扱い、POSTの間に同時に実行させます。この革新的な設計により、VividBIOSはPOST画面で重要な情報を漏らすことなく、皆さんを美しく、優美な256色画面へとお連れします。

加えて、BIOS ROMのスペースが限られていることも別の大きな問題です。従来のBIOSは全てスペースを消費し、圧縮できないBitmapを表示するだけですが、AOpenはBIOSを次世代に向けてかなり調整し、より小さなGIFフォーマットや動的GIFアニメーションを認識できるようにしました。



Vivid BIOSはOpen JukeBox CD Playerとも基本的な技術を共有しています。同じEzSkinユーザーリティーを使ってVividBIOS画面を変更したり、お好みのOpen JukeBoxスキンをダウンロードすることもできます。この小さなロゴがマザーボードのダウンロードページ



<http://english.aopen.com.tw/tech/ezskin/vivid.htm>のモデル名の横に表示されていれば、お手持ちのマザーボードがこの革新的な機能をサポートしていることの保証です！

第6章 ドライバーをインストールする



ドライバーやユーティリティのインストールはインストールウィザードやステップに従って繰り返し行う作業だとお考えかもしれませんが。それでは、EzInstallがどれほど“簡単に”それをやってのけるかに驚かれるかもしれません。ウィザードやステップはなく、皆さんにはただ一回クリックして頂くだけです。クリックしたら終わりです。EzInstallはインストールを簡単にし、誰でも間違えずにできるようにしてくれます！

CDを入れると、AOpenの“ようこそ”ページと支社情報が出てきます。

まず、必要なドライバーのために左側のインストールドライバーのアイコンをクリックしてください。

次に、お好みのユーティリティのために右側のインストールユーティリティのアイコンをクリックしてください。

実質的にはこれだけです。しかしCDの内容をブラウズしたり、もっと情報を入手するためにReadmeを見たり、CDインストールを終了したりできます。

クリックしてオンラインマニュアルをインストール

The screenshot shows the AOpen Welcome screen with the following callouts:

- ドライバー (Driver)
- ユーティリティ (Utility)
- CDの内容をブラウズ (Browse CD content)
- Readme
- Exit CD
- インストールユーティリティ (Install Utility)
- AOpenの支社情報 (AOpen branch information)

The main content of the screen includes:

- Welcome** (with "Install User manual" link)
- Thank you for choosing AOpen i9150a-E
- Contact us section with details for:
 - AOpen Inc. (http://www.aopen.com.tw, TEL: +886-2-3789-5888, FAX: +886-2-3789-5899)
 - AOpen America Inc. (http://english.aopen.com.tw, TEL: +1-406-232-1200, FAX: +1-406-232-1280)
 - AOpen Computer B.V. (http://www.aopen.nl, TEL: +31-73-645-9516, FAX: +31-73-645-9604)
 - AOpen Computer GmbH. (http://www.aopencom.de, TEL: +49-2131-1243-710, FAX: +49-2131-1243-999)
 - AOpen Japan Inc. (http://www.aopen.co.jp, TEL: +81-046-290-1800, FAX: +81-046-290-1820)
 - AOpen International Co., Ltd. (http://www.aopen.com.cn, TEL: +86-21-6225-8622, FAX: +86-21-6225-7926)
- Ez Install logo at the bottom right.

6.1 ドライバーをインストールする

Install Driver（ドライバーをインストールする）というページから分かるように、EzInstallはマザーボードのために必要なものを拾い上げてくれました。皆さんがすることはただ“GO”をクリックするだけで、その後にはステップはありません。リストに挙がっているドライバーの中で、灰色でチェックされているのは必要なドライバーで、皆さんが除外することはできません。赤色のチェックは今回必要でないなら無効にできるものです。



アイコンを押すと“Install Driver”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



一度“GO”をクリックするとEzInstallは自動的にインストール手順を実行してから、再起動ダイアログを出します。（ドライバーやユーティリティの中には再起動の部分をスキップするものもあります。）

ご注意: Intelチップセットドライバの制約のため、Windows 2000では、オーディオドライバを正しくインストールするにはService Pack 4にアップグレードする必要があります。

6.2 ユーティリティをインストールする

Installing Utilities（ユーティリティをインストールする）はドライバーのインストールとほとんど同じです。AOpenはシステムを管理するために、たくさんの使いやすく強力なユーティリティを提供しています。数多くの素晴らしいユーティリティが列挙されていることがお分かりになるでしょう。皆さんにはただ“GO”をクリックして頂くだけで、あとは複雑なステップはなしにシステムにユーティリティがあつという間にインストールされます。



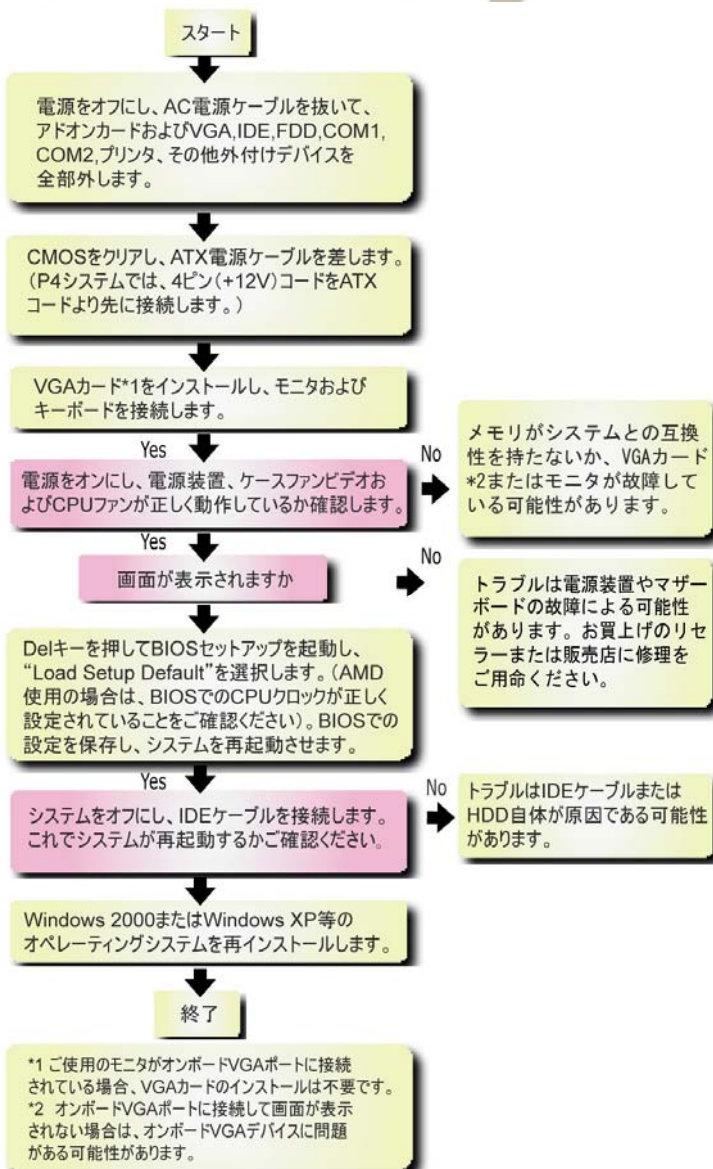
アイコンを押すと選択できるよう“Install Utilities”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



第7章 トラブルシューティング



TroubleShooting



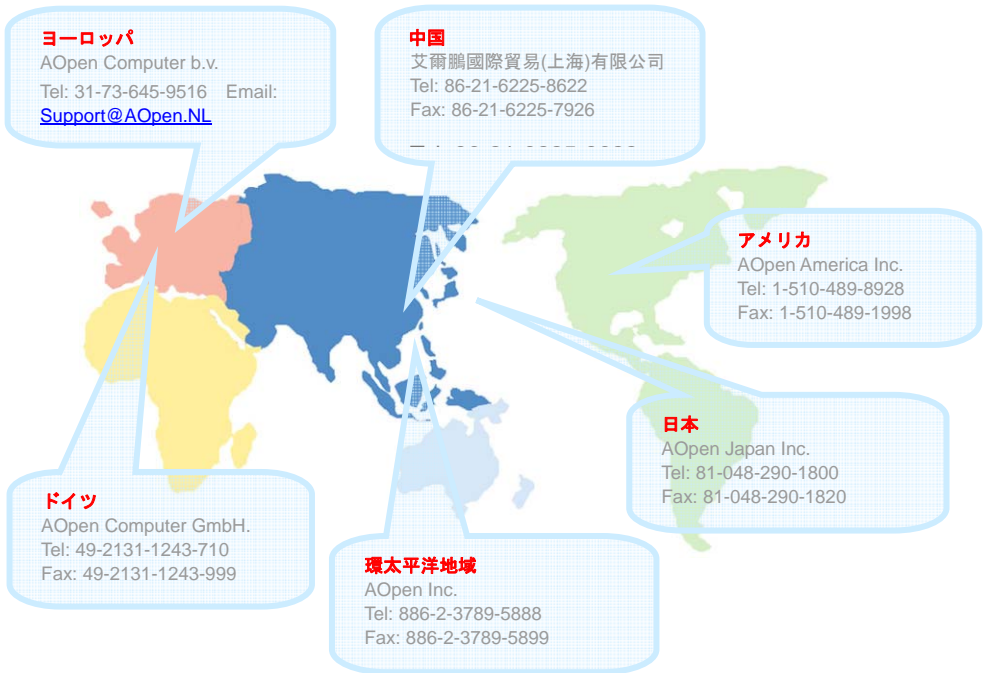
第8章 テクニカルサポート

お客様各位

この度はAOpen製品をお選びくださりありがとうございます。今後の良質なサービスを保証するClub AOpenのゴールド会員になるために<http://www.aopen.com>で登録して下さるようお勧めいたします。お客様各位への最良のサービスを維持できるよう、下記の手順に従い、皆様がお買い求めになった地域に従って、各地の支店からサービスをお受けになるようお願い致します。皆様のご協力によって、全てのお客様への効果的で最良のサービスを提供し続けてまいります。

ご理解に厚く感謝致します。

AOpenテクニカルサポートチーム



ヨーロッパ Email :

Support@AOpen.NL

環太平洋地域 :

<http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>

中国 :

<http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>

ドイツ :

<http://www.aopencom.de/tech/default.htm>

アメリカ :

<http://usa.aopen.com/tech/default.htm>

日本 :

<http://aopen.jp/tech/index.html>

モデル名とBIOSバージョン

モデル名とBIOSバージョンはブートの最初の画面(POST画面)の上部左に現れます。

例えば：



i915Ga-Eはマザーボードのモデル名で、R1.02はBIOSバージョンです。

マザーボードを登録する

AOpen製品をお選び下さりありがとうございます。Club AOpenのゴールド会員になるために、本マザーボードを <http://club.aopen.com.tw/productreg/>にてご登録ください。AOpenが高品質のサービスと優先度を保証するものです。スロットマシンゲームに参加して、AOpenから賞を獲得するチャンスもあります。始める前に以下の情報を準備してください：モデル名、部品番号(P/N)、シリアル番号(S/N)、購入日付です。部品番号とシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。このバーコードラベルはパッキングの外部かPCBのコンポーネント側にあります。例えば：



P/N: 91.88110.201は部品番号、S/N: 91949378KN73はシリアル番号です。

Phoenix-Award BIOSエラーメッセージ

エラー音	メッセージ
1回短く (・)	システムのブートが正常
2回短く (・・)	BIOS設定エラー
1回長く - 1回短く (-・)	メモリエラー
1回長く - 2回短く (-・・)	AGPエラー (VGAカードかモニターの接続エラー)
1回長く - 3回短く (-・・・)	VGAカードエラー (オンボードVGA利用時はメモリエラー含む)
長いエラー音が継続 (- - -)	メモリエラー (メモリが正しく装着されていない、正しく認識していない)



Technical Support

オンラインマニュアル：マニュアルをダウンロードするには、まずログインが必要な言語を指定します。“Type”のディレクトリから“Manuals”を選んで、マニュアルデータベースにアクセスします。マニュアルおよびイーージーインストールガイドはAOpenボーナスバックCDにも収録されています。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

テストレポート：PC組立てには、互換性テストレポートからboard/card/deviceの部分をご覧になることをお勧めします。これで互換性に関するトラブルを解決できるかもしれません。

<http://aopen.jp/tech/report/index.html>

FAQ：ユーザーがよく直面する問題やFAQ（よく尋ねられる質問）が列挙されています。ログインが必要な言語を指定してから問題の解決方法を見てください。

<http://aopen.jp/tech/faq/index.html>

ソフトウェアのダウンロード：ログインして必要な言語を指定した後、“Type”のディレクトリからアップデートされた最新のBIOSまたはユーティリティ、ドライバをダウンロードしてみます。大半の場合、最近のバージョンのドライバやBIOSにより、バグや互換性の問題が解決されます。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

eForum：AOpen eForumは当社製品に関して他のユーザーと討論する場所で、ユーザーの問題が以前に取り上げられたか以後答えを得られる可能性があります。ログインしてから“Multi-language”で必要な言語を指定します。

<http://club.aopen.com.tw/forum/>

当社へのご連絡：ご連絡に先立ち、システム設定の詳細情報およびエラー状況をご確認ください。パーツ番号、シリアル番号、BIOSバージョンも大変参考になります。

販売店、リセラーへのご連絡：当社は製品をリセラーおよびシステム設計会社を通して販売しております。ユーザーのシステム設定に関して熟知しており、お持ちの問題の解決方法または重要な参考情報が提供される可能性があります。